二、改正職業紹介法とその對策　大阪府工場課長　大森寛氏
協調會大阪支所　秦野正勝氏
一、出席者　木村堺警察署長外四十名
一、概況　清水幹事開會の辭を述べ、木村堺警察署長より今後警察と提携勞務管理研究會と共同主催で種々會合を催す方針を述べられ大森工場課長を紹介す、工場課長より約五十分間工場に於ける時局貯金要綱に就て說明後質問應答あり、午後五時より夕食を共にし六時より秦野正勝氏より改正職業紹介法に就て改正主旨、同法律の內容、構成に關して說明後實務上に就て會員の熱心な質疑あり八時盛會裡に散會す。

關西民謠體操研究會ハイキング會

一、日　時　六月十九日午前九時半―午後三時
一、コース　大鐵沿線　高鷲玉手山コース
一、體　操　「四季の日本」「愛國行進曲」
大阪府工場課　干川類五郎氏指導
一、參加者會員及家族等　四十名
一、概況　定刻集合後、準備を整へて午前十時發電車にて阿部野橋驛を出發高鷲驛にて下車、一路預定コースを西下して道明寺に辿りつき境內の綠地にて「四季の日本」を練習、晝食後寶物を拜觀して再び西下、玉手山に向ひ、玉手山遊園地廣場にて、「愛國行進曲」を復習し、同地にて解散した。

名古屋出張所

第八回勞務管理職員講習會

一、日時　五月十二日午後一時半―五時半
一、會場　名古屋市中區白金町＝名古屋市社會館
一、出席者　三十名
一、講師及講題
產業衞生(第二講)　名醫大教授　鯉沼茆吾氏
榮養改善　名古屋市衞生試驗所技師 榮養指導部長　黑田　理氏

第九回勞務管理職員講習會

一、日時　昭和十三年五月二十六日午後一時半―五時
一、會場　名古屋市中區白金町＝名古屋市立社會館
一、出席者　三十二名
一、講師及講題
戰時統制經濟(第二講)　名古屋高商教授　赤松　要氏
產業衞生(第三講)　名醫大教授　鯉沼茆吾氏

岐阜勞務管理研究會開催の件

岐阜縣下に於ける三百人以上使用工場は三十二工場に及び近時勞務、人事管理研究の緊要を痛感するに至りたるを以て、當出張所に於ては岐阜縣工場課並に同工場會の後援を以て勞務管理研究會を開催することゝなりその第一回を左記に依り開催せり。
一、日時　昭和十三年六月六日午後二時―五時半
一、會場　岐阜縣廳會議室
一、主催　協調會名古屋出張所
一、後援　岐阜縣工場協會
一、講師　戰時戰後の勞務管理問題　協調會參事　長谷孝之氏
經營社會政策と勞資調整　愛知時計電機勞務部長　南岩男氏
一、出席者　岐阜縣地方警察技師野村剛三氏及日本毛織岐阜工場飯田事務課長外二十五名
本會側　大澤名古屋出張所長
定刻　大澤名古屋出張所長本會開催の趣旨を述べ、將來かゝる研究會を時宜に應じ開催致し度御協力を得度要望し、長谷本會參事戰時戰後に於ける勞務管理の重要性を詳述し、南愛知時計勞務部長は經營社會政策の意義闡明、その研究の重要性と使命につき講述され、進んで勞資調整問題に關して實際家、研究家としての立場より批判を下され、後粗餐を共にし、質疑應答的懇談を重ね午後五時半意義ある研究會を閉ぢたり。尙ほ本研究會は出張所側要望通り時宜に應じ、出張所主催を以て繼續開催することゝなれり。
以　上

勞務管理懇談會の件

一、日時　昭和十三年六月十七日　自午後七時至午後十時
一、場所　名古屋市中央社會館
一、主催　協調會名古屋出張所　鐵工報國組合
一、出席者　五十餘名
會合概要　先づ太澤出張所長挨拶をなし本會常務理事蒲生俊文氏「事業主の福利運動」なる題下に一時間四十分に亘つて講演をなし次いで懇談を重ねて盛會裡に散會。
尙鐵工報國クラブは名古屋市中央社會館の斡旋により七十工場約三千名の中小工業事業主、從業員團體にして今後本會出張所に於ても事業上の連絡をなすことゝなりたり。
以上

福岡出張所

福岡縣工場鑛山殉職者慰靈碑除幕式並第一回慰靈祭

福岡縣鑛工聯合會に於て昨年七月以來縣下工場鑛山事業主並に從業員の據出金に依り建設中の福岡縣工場鑛山殉職者慰靈碑は約半歲の月日を費し此程完成したるを以て工場鑛山に於ける既往殉職者一萬三千七百四十七柱の英靈を合祀し六月二十日新綠滴る福岡市東公園慰靈碑前に於て之が除幕式並第一回慰靈祭を擧行せられたるが其の狀況左記の通り。
一、日時　昭和十三年六月二十日午前十時
二、會場　福岡市東公園殉職者慰靈碑前
三、出席者　八百名（來賓、遺族、一般參列者）
四、式次第
1 開會の辭
2 修　祓
3 除　幕　渡邊福雄氏令孫
4 降神行事
5 獻　饌
6 齋主祝詞奏上
7 祭主祭文奏上　知事赤松小寅氏
8 事業主總代祭文奏上　株式會社渡邊鐵工所社長渡邊福雄氏
9 從業員總代祭文奏上　三井田川鑛業所岡田春太郎氏
10 齋主玉串奉奠
11 祭主玉串奉奠　知事赤松小寅氏
12 副祭主玉串奉奠　福岡鑛山監督局長堀義臣氏
13 會長玉串奉奠　警察部長廣瀨永造氏
14 遺族總代玉串奉奠　貝島炭礦株式會社大之浦谷口百吉氏
15 事業主總代玉串奉奠　株式會社麻生商店專務取締役野田勢次郎氏
16 從業員總代玉串奉奠　八幡製鐵所横大路茂氏
17 來賓總代玉串奉奠　工場懇話會代表八幡警察署長有吉與市氏
一般來賓代表協調會福岡出張所長淸原進氏
18 建立委員總代玉串奉奠
19 工事關係者總代玉串奉奠
20 撤　饌
21 昇神行事
慰靈祭終了引續き竣工式
1 會長挨拶　警察部長廣瀨永造氏
2 建立經過報告
3 建立工事報告
4 來賓祝辭
5 感謝狀贈呈
6 閉式の辭

第十二回工場鑛山勞務者表彰式

一、日　時　昭和十三年六月二十日午後二時
二、會　場　福岡市東公園內武德殿
三、出席者　代表三百名
四、表彰式內容
1 一同敬禮
2 遙　拜
3 國歌合唱
4 閉式の辭
5 表彰狀及褒勞賞授與
6 總裁告辭
7 來賓祝辭
厚生省勞働局長成田一郎氏
協調會常務理事町田辰次郎氏
筑豐石炭鑛業會長貝島太市氏
久留米工場懇話會長石橋德次郎氏
8 被表彰者總代答辭
9 閉式の辭
10 一同敬禮　解　散

編輯後記

戰時下の銳い諸問題がいよいよ國民の目の前に展開される狀態になつた。今迄は戰爭は主として戰線に於てのみその銳い形相を明示してゐたのであるが、今や國民の生活の隅々にまで、ひしひしとその影響を及ぼし來つたのである。生活の樣式も戰時下らしい仕組、心構の下に規整せられねばならぬやうになつた。一枚の浴衣を買ふにも、日本國家の直面してゐる危機的事態の本質の認識を明確にする必要が痛感せられるやうになりつゝある。

だが、このやうなことをにつき細々した點まで政府の御世話になるやうでは國民の恥でなければならぬ。自發的にやらねばならぬ事柄である。產業勞働界にも大きな劃時代的變化があらはれ、戰時下の問題が銳い形となつて浮び上つて來てゐる。事變のため失業する人々があらはれて來る。かくの如く重大な問題が全國民の前に赤裸々に提出され來つた時に際し、我々國民は自らの自覺によつて自發的に解決すべく努力すると必要である。

產業報國運動もこの戰時の諸問題とからみあつて、その中から生れたものであり、本號に報告せる如く着々と進行中であり、この運動を通じて我々は國家への御奉公の一端たらんことを期するものであり、本「協調」も亦その使命の重大さを自覺する次第である。

協調

編輯兼發行人　東京市芝區芝公園六號地協調會　町田辰次郎
印刷人　東京市芝區愛宕町三丁目二番地　川口印刷所
發行所　東京市芝區芝公園六號地　財團法人　協調會
電話芝一二三一、三七〇四　振替口座東京五三
每月一回十五日發行
定價一部金五錢

創立に當りて

產業報國聯盟理事長　河原田稼吉

一

今般朝野各方面の御協力の下に產業報國聯盟が創立されるに至つたことは、我國產業界にとつて洵に慶賀に堪へない次第であります。御承知の如く、我國は歷史上未曾有の難局に遭遇し、政治、經濟、外交が國民生活の全分野に亘つて一大轉換を要する秋に立至つてゐるのでありまして、產業勞働界に於きましても亦、單に從來の傳統を墨守すると云ふのでなく、將來の大飛躍に具へるための新態勢を整へなければならぬのであります。

二

產業報國聯盟の運動こそはまさに斯かる目的を以て生れた、新時代の國民的勞働運動とも云ふべきものであります。これは謂ふまでもなく倫理運動であり、精神運動であります。從つて法律に依るものや、勞働組合の團體協約に依るものの如く、個々の問題に關しての强制力は持たぬのであります。倫理的自覺、社會的制約に訴へるのであります。尤も本運動は正常なる勞働立法を阻害したり、健全なる勞働運動を排斥する樣なことは毛頭ないのであります。たゞ一片の法律や、一部の人々の團結に依るのでは、到底今後の產業問題を解決することはできない、どうしても全產業人の理解に訴へ、全產業人の要望に基いたものでなければ眞の效果を納めることはできぬのであります。

三

本運動の主要なる眼目とするところは、唯物思想に基いた所謂階級觀念の排除であります。即ち資本、經營、勤勞は三位一體となつて有機的に結合されてゐるのであります。從來階級鬪爭を主張した人々が、好んで資本家と勞働者とを區別したのでありますが、我々は社長も社員も職工も、共に勞働者であり、或場合には經營者であると見るのであります。產業報國運動に於ては、全產業人を悉く勤勞者と見るのであつて、產業報國と云ふも勤勞報國と云ふも同一の意義を有するのであります。

產業に從事する全員が、國家的見地に立つて、勞資一體全產業人一體となり、我國產業の發展と共同福祉のため協力することが、本聯盟創立の本旨に外ならぬのであります。

產業報國運動の出發に當りて

協調會常務理事　町田辰次郎

一

各方面の熱誠なる御協力の下に、今回產業報國聯盟の創立を見るに至つた事は、我國產業界の前途の爲めに洵に慶賀に堪えない處である。

顧みれば、協調會は創立以來、勞資の協調偕和を提唱して微力を盡くして來たのであるが、勞資の一部には未だ其の趣旨の徹底を見ざるの憾があつた。然るに支那事變が勃發し、有史以來未曾有の國難に遭遇するに及んで、期せずして我が國體に卽したる產業指導精神の確立を要望するの聲が起つて來た。

產業報國運動こそは、正しく支那事變が生んだ貴い日本產業魂とも云ふべきものである。

二

皇國の產業に於いては元來階級對立は存しなかつたのである。全產業人が陛下の赤子として、各々自己の職分を完ふし、皇國の產業發展の爲めに力强き團結を爲す事が我が日本國民の特徵である。然るに歐洲大戰後、急激なる我國產業の躍進が動もすれば歐米の唯物的功利主義觀念に禍され、爲めに本來一體たるべき我國の勞資關係に一抹の動搖を來すに至つたのである。

事業者が、從來の功利的營利觀念を淸算して、產業の本質並に其國家的使命を自覺し、（產業を通じて國家に御奉公するの信念に立ち）從業員に對しては、精神的にも物質的にも心からなる親心を以て、臨む事が肝要である。同時に從業員は勤勞を生活の手段と見る事なく國家奉仕の觀念を以て事業の發展に協力し、常に技能を練磨して皇國產業人としての職責を完ふしなければならぬ。

三

斯くの如く、精神的な相互の信頼と理解を基とした渾然一體の結合が眞の產業發展、國家興隆の基礎と爲すのである。全產業人が斯かる產業精神を體得して勞資一體、產業報國の實を擧ぐるならば戰時下に於ける生產力の擴充問題も戰後に於ける勞働不安や思想問題も自ら解決する事が出來る。

本聯盟創立の使命は、斯くの如く誤まれる階級觀念を根本的に淸算し、我國本來の純風美俗たる日本產業道を確立し、且つ其の普及徹底を圖る事が大眼目である。

協調會としては此の運動に全力を擧げて邁進したいと云ふ熱烈なる決意を固めて居る次第である。